

<p style="text-align: center;"><b>真</b> 「しん又はまこと」</p>	<p style="text-align: center;"><b>石山高等学校</b></p>
<p>石山高等学校の部旗にはシンプルに「真」の一文字が書かれています。「真」という字は「眞」の略字体で意味は同じです。『大漢和辞典』には「真」の意味について「まこと」「不変」「ありのまま」「みち」「もと」「ゑすがた」など二十二項目があげられています。総じて「真」は「純粋な理想の姿」を想起する文字であるかと思えます。</p> <p>また、木刀や竹刀ではなく刃の入った本物の刀を「真剣」といいますが、殺傷能力のある真剣を所持する武士は、きわめて高い倫理性と正しい刀の使い方を身につけていなくてはなりません。剣道において礼が重んじられ、精神の鍛錬や文武両道が強調されるのはこのためです。「真剣」という語に「本気」とか「まじめ」という意味があるのは、このような「真剣（本物の刀）」を携える者の心得が基になっているのでしょう。</p> <p>石山高校の剣道部の歴史は昭和45年から始まっているようです。私事にわたりますが、昭和48年に新任で大津商業に赴任して剣道部の顧問をしていた私は、石山高校とも日常的に交流をさせてもらっていました。当時の石山の剣道部は、中学校からの経験者も沢山いて和気藹々と活動し、県体に優勝するなど常に上位入賞する強豪チームであったと記憶しています。創部当時の顧問柴原藤雄先生は、穏やかでいつも部員たちを愛情の目で見つめながらご指導になっておられました。この度、この「真」という部旗について学ばせてもらうために、柴原先生に電話を差し上げました。傘寿をお迎えになった先生は御壮健で、以前と全く変わらないお声で「真の人間らしい心を求めて精進してほしい、きれいな技と同時に礼儀正しい真心を磨いてほしいという願いをこめて、生徒たちと相談しながら旗を作りました」とお話しいただきました。</p> <p>現在の部員の皆さんも「真」一文字の深い意味を噛みしめながら稽古に励んでいることと思えます。</p>	